



平林金属株式会社様に対する

『114 ポジティブ・インパクト・ファイナンス』第一回モニタリングの実施について

百十四銀行（頭取 森 匡史）は、2023年6月30日（金）に実行した大元支店取引先 平林金属株式会社（岡山県岡山市北区下中野 代表取締役 平林 実）向け『114 ポジティブ・インパクト・ファイナンス^(※1)』に対し、第一回目のモニタリングを実施しましたのでお知らせします。

ポジティブ・インパクト・ファイナンスにおけるモニタリングでは、融資実行時に発行したポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書に掲げる、お客さまのマテリアリティ（重要課題）を解決するための取組方針と、その達成度合いを測定する KPI（重要目標達成指標）に対し、進捗状況の確認と、KPI 達成に向けた各種支援を実施します。本件モニタリングを通じて、お客さまのサステナブル経営を一層推進します。

当行は、今後も地域金融機関として、お客さまの SDGs や ESG への取組みを支援してまいります。

(※1) お客さまの企業活動が経済・社会・環境にもたらすインパクトを包括的に評価し、ポジティブインパクトの拡大とネガティブインパクトの緩和に向けた取組みを支援する融資。当行のポジティブ・インパクト・ファイナンス実施体制については、株式会社格付投資情報センターより、国連環境計画・金融イニシアティブ『UNEP FI』が制定したポジティブ・インパクト・ファイナンス原則に適合している旨のセカンドオピニオンを取得している。

記

■企業の概要

会社名 平林金属株式会社
所在地 岡山県岡山市北区下中野 347 番地 104
業 種 総合リサイクル業

【サステナブルな取組み】

『資源の有効活用』が、当社に課せられた地域環境保全に貢献できる最大の使命と認識し、主業である金属の再資源化をはじめ、さまざまな資源のリサイクルを推進します。サーキュラーエコノミーやカーボンニュートラル等に関連したプラスチックリサイクルの機運も高まっており、プラスチックの再資源化により脱炭素化社会の実現に向けた取組みを強化することで、環境保全に貢献してまいります。

『MOTTAINAI、ARIGATAI』をキャッチフレーズに、太陽光パネルのリサイクル技術研究や、中四国唯一の家電リサイクルプラントにおける家電の再商品化、全国初の有人型資源集積システム「えこ便」の展開など、不法投棄・違法回収の低減と、循環可能型社会の形成に向けた取組みを行っています。

※平林金属株式会社の「ポジティブ・インパクト・ファイナンス第一回モニタリング報告書」については、別紙をご参照ください。

以上

平林金属株式会社

ポジティブインパクトファイナンス

第1回モニタリング報告書



2024年9月30日



目次

1. 平林金属株式会社の企業概要.....	1
2. 目標達成に向けた進捗状況.....	2
3. 総評.....	3

1. 平林金属株式会社の企業概要

企業名	平林金属株式会社
創業	昭和31年10月
設立	昭和35年7月16日
代表者名	代表取締役社長 平林 実
資本金	9,980万円
従業員	414人（令和6年3月末）
売上高	217億円（令和5年12月期）
事業拠点	本社（岡山県岡山市北区下中野347-104） 岡山工場（岡山県岡山市北区下中野406-1） 岡山東営業所（岡山県岡山市東区寺山33-1） 港工場（岡山県岡山市中区新築港1-22） 水島工場（岡山県倉敷市水島西通1-1920） 山陰工場（鳥取県米子市旗ヶ崎2315） リサイクルファーム御津（岡山県岡山市北区御津高津120-13） 西大寺工場（岡山県岡山市東区西大寺新地108-5） 玉島物流センター（岡山県倉敷市玉島乙島字新湊8259-5）
事業内容	鉄・非鉄金属及び使用済み家電・自動車のリサイクル事業 <グループ企業> 株式会社ヒラキン ヒラキンテック株式会社 ヒラキン興産株式会社 葉豆瑠農園株式会社（瀬戸内市前島地区での農業事業） たからさがし株式会社（就労継続支援A型事業所）

2. 目標達成に向けた進捗状況

項目	内容
インパクト	カーボンニュートラルの達成とサーキュラーエコノミーの実現
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・加工・選別技術を他社へも提供し、プラスチックやガラスのリサイクル技術を底上げする ・カーボンニュートラル素材である再生鉄鋼材料の流通を促進する ・他業種と連携し太陽光パネル再生材料の用途開発を実現する
KPI	2030年までに硬質プラスチック回収量年330トンを目指す 2040年までに他業種と連携し太陽光パネル再生材料の用途開発を実現する
KPI進捗状況	港工場レイアウト改善により、選別工程のムダがなくなったことから回収量・回収率ともに向上 2024/1～2024/4のみで11,177kgの回収を行っており、達成に向け順調である 岡山大学と共同研究でガラスを再度パネルに使用できるよう、高品位な回収方法を開発中 パネルメーカーと共同で回収した銀を濃縮する装置を開発中。今夏に第一弾完成予定

項目	内容
インパクト	食の流通事業・農業(作物栽培)・福祉事業の深化
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・残留農薬ゼロ野菜を自社プラットフォームを活用して販売していく ・農業にバックグラウンドを持つ人を雇用する ・就労継続支援A型事業所への仕事創出と人手不足へのマッチングを行う
KPI	2030年までにたからさがし(株)からの一般就労移行を7人目指す
KPI進捗状況	2024年5月末時点で2名の一般就労移行が完了 今後も1年に1名を目安に一般就労移行予定 手作業での選別工程や葉豆瑠農園での就労など、グループ全体で就労場所を増やしている

項目	内容
インパクト	国内外の貧困問題へのアプローチ
内容・対応方針	国内NPO法人と協力をして、コーヒーの栽培に従事するネパールの農家へ栽培方法の指導と販売ルートの確立に取り組む
KPI	2030年までにコーヒー豆年間流通量4,500kgを目指す
KPI進捗状況	2023年12月期の年間流通量は4,130kg NPO法人AMDAマイنزの現地駐在職員による栽培支援が定着し、収穫量が大幅増 収穫量の増加に伴い、現地での雇用も盛んになっている コーヒー豆のサブスクメニューも開始し、販売数量も増えている。コーヒー豆の詳細は こちら

項目	内容
インパクト	生涯スポーツであるソフトボールのさらなる発展と障がい者アスリートへの支援
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者アスリート（走り高跳び、軟式野球）の応援 ・男女ソフトボール・軟式野球選手の応援 （ソフトボール・軟式野球チームの運営、選手の雇用） ・スポーツ推進課の活動継続 （ライズカップ、プロスポーツ教室、地域のソフトボール教室への協力）
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボール、軟式野球チームの強化と選手の雇用促進 ・スポーツ教室の開催継続と地域との連携強化
KPI進捗状況	<p>男子ソフトボール選手が複数名引退したが、現場作業員・営業社員として継続雇用 女子野球選手を西大寺工場にて3名雇用中（現場作業員として） 男女ソフトボールチームに新メンバーが5名加入し戦力をさらに高め、地域を代表するプロスポーツチームとして好成績を狙っていく</p>

項目	内容
インパクト	女性社員の活躍機会拡大
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・機械化等により、性差やフィジカルに囚われないサイクル業務を推進する ・業務内容の見直しや新規事業の体制強化を行い、柔軟な勤務体制・内容を創出する
KPI	2030年までに「現場女子」を3人にする（女子ソフトボール選手を除く）
KPI進捗状況	<p>えこ便事業部を除き4名の女性社員が現場作業に従事している 大卒新卒者の中に現場勤務を希望する者が複数名おり、体力的な面も考慮して配置を行ったが、2名の若手現場女子が誕生した 県内女子大からの新入社員も増え、今後も女性社員が大幅に増える見込み</p>

3. 総評

早期達成が見込まれる目標もあり、インパクトへの取組みは全体的に活発である。特に太陽光パネルの再生方法の開発や硬質プラスチックの回収技術の確立については、社会的な注目も集まる環境課題であることから早期のKPI達成が求められるが、着実に実績を上げており、早期達成による環境課題解決への道筋が見えてきている。

コーヒー豆の販売についても、サブスクメニューの開発や法人契約の活用により販路が拡大されており、収穫量の増加に合わせて、商品の出口も確保されたサステナブルな国際貢献の形が形成されている。

以上のことから環境関連のNI縮小と経済収束、包括的で健全な経済のPI拡大が実績として表れている。

現場への女性社員の採用・登用についても、女子大からの新卒応募者や大卒社員からの現場勤務希望者が出てくるなど、負荷軽減とイメージ向上の効果が現れている

百十四銀行も、コーヒー豆の販売や再生後のガラスパネルの活用におけるビジネスマッチングを通じた販路支援、女性マネージャークラスの紹介や広告媒体の紹介、大学等への連携支援を行い、当社のマテリアリティへの取組みをさらに加速させていきたい。